# 大阪・関西万博「基本計画」再読

大阪・関西万博は2021年12月にオンラインで開催されたBIE総会で承認され、まもなく開催に向けた基本計画が公表された。会場建設が大幅に遅れており、開催が危ぶまれている。

万博開催まで1年半を切ったが、万博会場の厳しい現実が気になる。基本計画には、会場デザインコンセプトとして、「多様でありながら、ひとつ」「ひとつの空」「海と空と地の万博」「明快な動線と多様な場を『非中心・離散』で配置する」として、会場イメージ図が掲げられている。

会場中心に配置されるパビリオンは、つぎの3タイプから構成される。

タイプA（敷地渡し方式）

主催者が参加者に敷地を渡し、その中で自由に形状やデザインを構成するパビリオンである。参加者は大阪・関西万博終了後パビリオンの解体・撤去を行い、引き渡し時と同様の状態に戻す責任がある。汚水、雨水排水、上水、電気、通信等のユーティリティ（供給管路）については、敷地境界までは主催者が設置する。ユーティリティへの接続と敷地内の整備は参加者の責任とする。

タイプB（建物渡し方式）

主催者が建築し、参加者のパビリオンとして提供する。参加者はパビリオンを借り受け、コンテンツを自由に決定し、自ら展示設備や内容、展示空間を作り上げる。参加者はパビリオンの内装や外装をデザインすることができる。パビリオンには（前記）ユーティリティを完備する。参加者の設備をユーティリティへ接続することは参加者の責任。

タイプC（共同館方式）

参加者はパビリオン内の一部区画を借り受け、自ら展示設備や内装を行って展示空間を作り上げる。共同館は、区画を自由に区切ることができるような設計とする。（以下タイプBと同じ）

パビリオンワールドの主動線（メインストリート）について。

パビリオンワールドのパビリオン等各施設は、パビリオン内のリング状のメインストリートと、メインストリートにつながるように離散的に配置する広場に面している。このメインストリートがパビリオンワールドの主動線となり、来場者はこの明確でわかりやすい主動線を移動して、パビリオン等の各施設にアクセスすることができる。

この主動線（メインストリート）の上部には大屋根（リング）を設置する。この大屋根（リング）は来場者を雨や日差しから守る機能を持ち、人々を導くナビゲーションの役割も果たす。大屋根（リング）の上には空中歩廊が巡り、パビリオン群が立ち並ぶ会場を俯瞰する視点を提供し、場所によっては斜面や段々、また海を望む展望歩廊を用意して、人々が思い思いに過ごすことができる居場所をデザインする。

（2023年11月2日）